

懷徳堂 News Letter

懷徳堂文庫蔵版木について

昭和24年(1949)、懷徳堂記念会から大阪大学に寄贈された貴重資料は、「懷徳堂文庫」と命名され、以後、文学研究科や附属図書館で整理が進められてきました。この文庫の特色は、書籍だけではなく、書画、屏風、印章など多数の器物が含まれている点にあります。中でも、300枚を超える版木があることはあまり知られていません。

すでに公開されている貴重資料データベースや『懷徳堂事典』(大阪大学出版会)では、中井履軒の『華胥国物語』版木が紹介されています。これは、履軒の曾孫に当たる中井木菟麻呂が明治19年(1886)に彫らせたもので、全10枚。ただ、見栄えのしない黒々とした版木は、これまで省みられることなく、文庫の奥に眠っていました。



『華胥国物語』版木

デジタルコンテンツ『画本大阪新繁昌詩』

そこで、文学研究科懷徳堂研究センターでは、これら版木の総合調査を進め、このたび、デジタルコンテンツ『画本大阪新繁昌詩』を完成して、「WEB懷徳堂(<http://kaitokudo.jp/>)」での公開を始めました。

このコンテンツでは、明治初期における文明開化の様子を記した画入りの詩



懷徳堂文庫版木収蔵の様子

集・『画本大阪新繁昌詩』の版木15枚(表裏30丁分)を閲覧できるようになっています。版木とは、印刷原版であり、版木を保有するということは、版権の所有を意味していました。版木そのものが失われつつある現在、貴重な資料としてご覧いただけるものと確信します。

懷徳堂版本

画本大阪新繁昌詩

版本とは

江戸時代の書物(和本)は、木版によって印刷が行われていました。これは、木の板に反転した形で文字や絵を彫り、それに墨を付けて和紙を上から置き、字や図をすり付けるといふ、ちょうど現在の版画のような要領でした。この木版印刷の原版となるのが版本で、通常、乾燥した桜の木を用いて作られ、端にはしばみと呼ばれるそえ木が付けられました。桜の木は、きめが細かく墨ののりがよく、また、最初は柔らかく後に堅くなるので、彫刻、保存のいずれにも向いていたのです。

懷徳堂と版本

印刷出版所としての機能を備えていた懷徳堂には、当時の印刷原版である「版本」が多数ありました。版本を保有することは、版權の保持を意味していて、版本は重要な学校資産でした。

しかし、幕末の財政逼迫により、中井桐園は、蔵書・家具・什器等を売り、さらに廃校寸前の明治2年(1869)の11月(廃校は12月25日)になると、さらに『逸史』『詩律兆』『非物篇』『非徴』『瑣語』『質疑篇』『社倉私議』など懷徳堂蔵書の版本を書肆加賀屋善蔵・河内屋吉兵衛に売却し、『通語』の版本を天満屋善九郎に売却しました。版本を手放すことは、出版權の放棄にあたり、それを無念に思った並河寒泉は、一部を密かに買い戻したとされます。しかし、これらの版本はその後、懷徳堂の閉校とともに、失われてしまいました。

大正5年(1916)に再建された懷徳堂(重建懷徳堂)には、関係者から多くの蔵書や器物が寄贈されました。また、懷徳堂自身も、蔵書類の購入に努めました。これらの資料は、昭和20年3月の大阪大空襲でも焼失することはありませんでした。鉄筋コンクリート造りの書庫棟に収められていたからです。そして、書籍・器物類のすべて計3万6千点の資料が、昭和24年に懷徳堂記念会から一括して大阪大学に寄贈され、現在に至っています。



『画本大阪新繁昌詩』版本



『画本大阪新繁昌詩』とは

明治初期における大阪の文明開化の様子を記した画入りの詩集です。明治8年(1875)刊、田中華城(たなか・かじょう)著。大阪城、造幣場、大阪府庁などの大阪を代表する建造物から、庶民生活を一変させた鉄道・蒸気船・郵便・瓦灯(ガス灯)にいたるまで、文明開化の新風がもたらした大阪の変化(全20場面)が細かく描写されています。場面ごとに岡島鳳洲(おかじま・ほうしゅう)による挿絵と田中華城による七言絶句1~3首が配されていて、挿絵に描かれた新しい大阪の情景・風俗を、平易な語り口の七言詩で解説するという形式をとっています。

デジタルコンテンツ紹介

WEB懐徳堂(<http://kaitokudo.jp/>)

版木画本大阪新繁昌詩

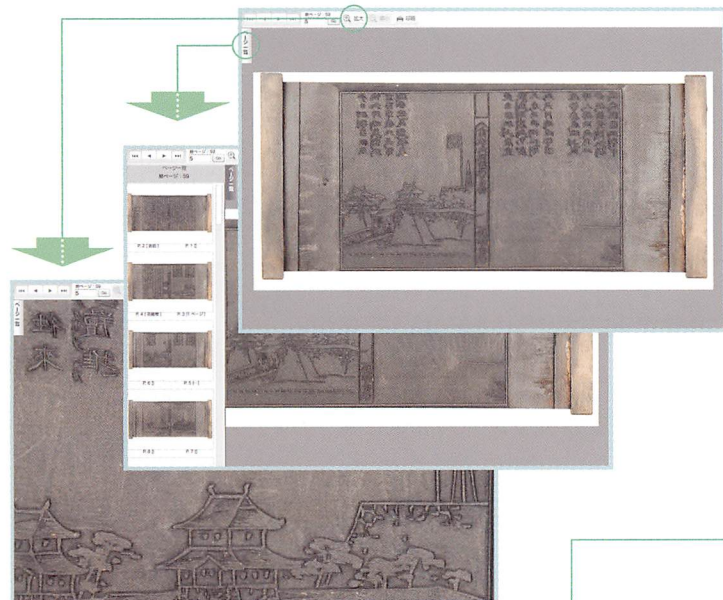
写真撮影やデジタル化になじまないと思われていた版木をデジタルアーカイブ化することにより、大きな夢と意義が広がります。このコンテンツでは、千年の歴史を持つ版木文化をデジタルアーカイブの手法によりもう一度見直し、さまざまな可能性を導き出します。

懐徳堂文庫蔵版木『画本大阪新繁昌詩』

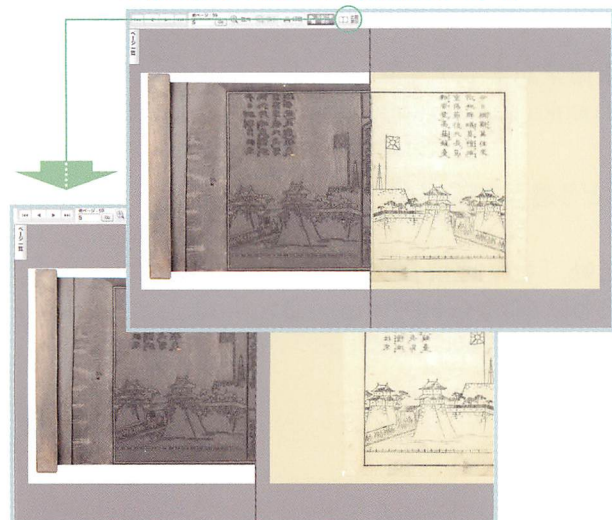
- ◆ 懐徳堂と版木
- ◆ 版木ビューア
- ◆ 対照ビューア
- ◆ 照合シミュレーション

「版木ビューア」では版木をページ順に閲覧できます。ページ一覧を使えば目的のページにジャンプすることもできます。また、拡大機能で細部を確認できます。

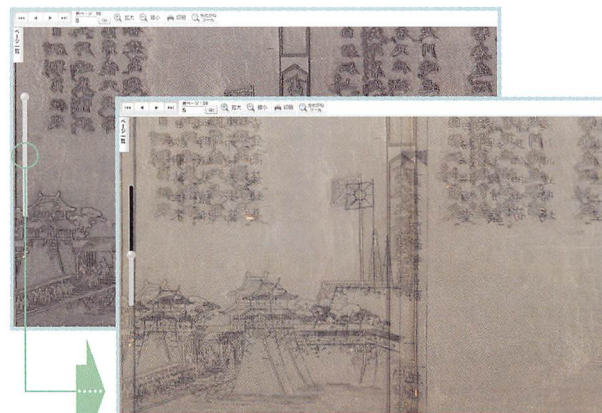
版木や懐徳堂との関わり、版木画本等の情報を閲覧できます。



「対照ビューア」は、「反転比較」と「比較」の両方で紙面と版木を対照して閲覧できます。紙面を移動すると、版木の該当部分も動きます。拡大機能も使えます。



「照合シミュレーション」は、重ね合わせた画像の透明度を変えて版木と紙面との違いを比較できます。拡大して確認することも可能です。



懐徳堂研究センターの業務

1. 懐徳堂に関わる調査・研究、資料の収集・作成（デジタルコンテンツを含む）
2. 『懐徳堂研究』（年1回定期）、パンフレット、ニューズレター（不定期）等の広報媒体の編集・刊行
3. 懐徳堂研究の総合サイト「WEB懐徳堂(<http://kaitokudo.jp/>)」の管理運営
4. 学内外における懐徳堂資料の展示、講演会などの開催
5. 懐徳堂記念会の事業に関わる資料調査等の協力
6. 本学附属図書館および総合学術博物館の業務に関わる懐徳堂関係資料の調査等の協力

懐徳堂研究センターQ & A

Q 懐徳堂について取材するにはどうしたらよいですか？

A 本センターにお問い合わせ下さい。専任職員は配置されていませんが非常勤職員がいますので、まずはお電話(06-6850-5088)などでお問い合わせ下さい。その内容に応じて、適切な教員・機関をご紹介します。

Q 「懐徳堂文庫」所蔵の貴重資料を閲覧するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂に関する貴重資料は、一部を除き、大阪大学附属図書館に配置・集中管理されています。閲覧等の手続きについては、附属図書館利用支援課(〒560-0043大阪府豊中市待兼山町1番4号、06-6850-5069〈FAX〉)へお問い合わせ下さい。

Q 懐徳堂に関する画像を借用したり、図書に掲載するにはどうしたらよいですか？

A 所蔵元によって申請方法が異なります。詳しくは、懐徳堂研究センターHPをご覧ください。

Q 旧懐徳堂センターの『懐徳堂センター報』や懐徳堂研究センターの『懐徳堂研究』のバックナンバーを見るにはどうしたらよいですか？

A 平成23年度より、順次バックナンバーを懐徳堂研究センターHPで掲載し、ダウンロードできるようになっています。

Q 懐徳堂の講座を受講するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂記念会の春秋講座・古典講座は、財団法人懐徳堂記念会が主催しています。問い合わせ・参加のお申し込みは、懐徳堂記念会(<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitokudo/>)へお願いします。

Q 大阪大学21世紀懐徳堂と懐徳堂研究センターとはどう違うのですか？

A 21世紀懐徳堂は、大阪大学が提供する社会貢献活動、「社会学連携」事業を推進する組織です。懐徳堂に特定した事業（研究教育活動）を行っているわけではなく、HP(<http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>)で、大阪大学全体および各部局の社会活動を広報しています。

※その他、詳細は懐徳堂研究センターHPをご覧ください。

 懐徳堂研究センター

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/>
〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科内
06-6850-5088(直通)